

牛久：学校周辺に見る自然

第20号 牛久自然観察の森

2016年9月12日発行

＜ 夏の終わりに、牛久自然観察の森を歩く ～ ④ 樹液に集まるチョウ ＞

9/2、夏の終わりに歩いた牛久自然観察の森。今回は、^{はなみつ}花蜜ではなく^{じゆえき}樹液を^す吸うチョウたちです。



「コジュケイの林」を歩いていると、コナラのまわりにサトキマダラヒカゲが数頭集まってきました。よく見ると、根もと近くでは^{じゆえき}樹液を吸っていました。他にルリタテハもいます。深い割れ目には、^{こうちゆう}甲虫のヨツボシケシキスイもいました。^{じゆえき}樹液の出ている部分がせまいためか、他のチョウが割りこもうとしても^お追いはらわれてしまいます。ルリタテハは羽を開くとルリ色のもようが目立ちますが、閉じると^{じゆひ}樹皮に色ももようも似て見つけにくくなりますね。これで、^{てんてき}天敵の鳥などの目もごまかしているのでしょう。^{じゆえき}樹液を吸うのはタテハチョウ科の仲間^{なかま}に多いようで、少しはなれた所にはクロコノマチョウもいました。もともと南の地方のチョウですが、北へ^{ぶんぶ}分布を広げていて、この辺でも普通に見られるようになりました。とはいっても、目立たず見つけにくいチョウですが。

【理科支援員：宮内】

コナラの根もとで^{じゆえき}樹液を吸う、ルリタテハとサトキマダラヒカゲ(上)。^{じゆえき}樹液を吸うものも多い。ルリタテハは、^{はね}羽を閉じるともようも色も^{じゆひ}樹皮のよう(中)。少しはなれて南方系^{なんほうけい}のクロコノマチョウも(下)。